



No. 30
2010 Summer

山 松 舎
寺 南 臨

れば自分の修行にはなりません。いつかやろうと考えていたら、いつまでもできません。道元禅師は老典座に合掌していました。

結局何の役に立つのか

道元禅師は、景德禅寺に入った当初から熱心に古人の語録や公案を読んで研究していました。いつものように語録を読んでいると、四川省出身の僧が話しかけてきました。

「語録を読んで、何の役に立つのですか？」

「日本へ帰って人々を導くためです」

「それが何の役に立つのですか？」

「苦しむ人々を救うためです」

「それで結局、何の役に立つのですか？」

「答えられない道元禅師を残して、僧は立ち去っていきました。」

いくら古人の言行を知ってもそれを実践しなければ修行にはならない。そこに思い至った道元禅師は、ひたすら坐禅に打ち込んでいくようになります。

特集

道元禅師ものがたり ⑥

薄紙をはがすような修行を重ねて



さすがに仏教先進国の中国です。道元禅師は、いわゆる高僧といわれる人物ではなく、一般僧の日常の振る舞いに刺激を受けて、目からうろこが落ちる修行体験を重ねていきます。

せんか。

再会を喜んだ道元禅師は、もう一度尋ねました。

「文字（言葉）とは何ですか？」

老典座が答えます。

「一、二、三、四、五」

言葉というのは掛け声のようなもので、実践してこそ意味があるというのです。

「では、弁道（修行）とは何でしょう？」

「森羅万象すべて隠さず」

つまり、目の前に存在するすべてのことが修行だということです。雑事のよ

うに見える典座の務めも、すべて実践

であり修行なのです。悟りに至る方向を教えられたのでした。

今やらなければいつやるのか

ある夏のことです。道元禅師がふと中庭を見ると、この寺の典座がキノコを干しています。酷暑のなかで、笠もかぶらず、汗まみれになっています。背骨は曲がり、いかにも辛そうです。年齢を聞けば六十八歳だと言います。

道元禅師は尋ねました。

「どうして下働きの人にやらせないのですか？」

「それでは、私の修行になりません」

「しかし、この暑さです。もう少し涼しくなってからされたらどうですか」

老典座は干す手を休めずに答えました。

「今やらなければ、いつやるのか」

そのとおりでした。自分でやらなけ



言葉とは何か 修行とは何か

二ヵ月後やつと入国が許された道元禅師は、榮西禅師が修行した天童山の景德禅寺を訪ね、無了派禅師のもとで修行することになりました。その道元禅師を老僧が訪ねてきました。船に権茸を買いに来たあの典座ではありま

渡邊剛毅前住職の 遺徳をしのび七回忌法要

七月二日(金)、大本山總持寺副貫首の江川辰三老師を導師にお迎えして、当山二十二世重興朴洲剛毅大和尚の七回忌法要と檀信徒総回向を修しました。

午後二時半、鐘の音を合図に七回忌法要が始まりました。約百五十人の参列者が見守るなか、導師の江川老師の手によりお菓子やお茶などさまざまなのが供えられ、前住職の徳をたたえる法語をとなえて、感謝報恩のまことをささげる焼香が行われました。そして、臨南寺を中興し宗門の重責を担った前住職の業績が声高らかに読み上げられました。さらに、約五十人のお坊さ



前住職の遺徳をしのんで、導師様を中心に居並ぶ方丈様方。



お坊さんたちの読経の中で一人ひとりが冥福を祈りました。

んたちが読経する中で参列者一人ひとりが焼香を行い、前住職の冥福を祈りました。その後、休憩をはさんで、檀信徒各家の先祖供養の法要が執り行われました。最後に導師の江川老師から「帰るとき、来たときよりも美しく」というお言葉を賜われました。「あの世へ行くときは、生まれたときよりも美しい姿形で」という意味もあるようです。

寺名石碑と六地藏の除幕式と開眼法要

六月二十四日(木)、臨南寺の入口に二つの新名所が誕生しました。寺名を刻んだ石碑と六地藏を安置した地藏堂です。この日は地藏菩薩の縁日。梅雨の晴れ間とも言うべき好天に恵まれて、除幕式と開眼法要が執り行われました。

● 寺名石碑の除幕式

護学会役員と住職により巨大な石碑を覆っていた白布が取り除かれ、「臨南禅寺」という文字が現れました。文字は、大本山總持寺貫首の大道晃仙猊下のご染筆。石は、四国大島で掘り出された国内でも有数の天然石。歴史と由緒ある臨南寺にふさわしい大きな石碑です。



● 六地藏の落慶式と開眼法要

まず、施主の皆さんの手により除幕式が行われました。白布のなかから六地藏の優しいお顔と優美なお姿が現れました。次に、お経があげられ、散華の儀式があり、清めの酒がささげられました。読経のなかで、参列者全員が焼香し、開眼法要は無事終了しました。



臨南寺のお盆は、 八月一日から始まります。



お盆は盂蘭盆うらぼんを略したものです。年に一度、あの世からご先祖たちがこの世に帰ってくる期間。お盆の入りには、先祖が帰ってくる時の目印になるように、ちょうちんを灯したり迎え火を焚いたりします。仏壇にお供えをし、お経をあげてもらいます。

臨南寺では、八月一日から皆様のお宅で棚経を勤めさせていただきます。

十日と十二日には、墓前回向を勤めさせていただきます。十日が午前十時から十二時まで、十二日が午後六時から九時まで。

十二日は、弁財天万灯会を開催します。午後六時から九時まで、弁財天様への献灯をご用意しています。願い事を書き入れ、本堂前にお供えいたしましょう。

万灯会は、お盆の迎え火でもあります。あらゆる願いを聞き届けてくださる弁財天様に皆様の願い事をご祈念させていただきます。

十六日には、盂蘭盆会施食会を厳修いたします。各家の精霊をご回向させていただきますので、ぜひお参りください。ご都合が悪くお参りできない方は、不参にてご回向をお受けいたしますので、お気軽にお問い合わせください。

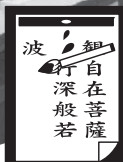


弁財天万灯会の夜、本堂前は幻想的な灯りに包まれます。

お彼岸には お写経と 施食会にお参りと



九月二十三日と二十五日の二日間、午前十時から午後四時まで、彼岸会写経会を開きます。一文字一文字心を込めてのお写経は、さまざまな功德をもたらします。先祖を供養し、故人の冥福を祈り、浄福を授かりましょう。お写経は、大本山總持寺に納経させていただきます。



九月二十六日には、午後一時から三時まで彼岸会施食会を本堂にて修します。ご家族そろってお参りなさいませんか。ご先祖様をしのび、ご家族の幸せを感謝いたしましょう。

臨南寺行事予定 (八月～九月)

檀家様

○ 墓前回向

八月十日 午前十時～十二時 受付は午前十一時半まで
八月十二日 午後六時～九時 受付は午後八時半まで
*どちらかご都合のよい日にお越しください。臨南寺に墓地をお持ちの方に限ります。

○ 弁財天万灯会 (本堂)

八月十二日 午後六時～九時 受付は八時まで

あらゆる願いを叶えてくださる弁財天様に、願いを託して献灯をなさいませんか。ご先祖様をお迎えする迎え火でもあります。

○ 盂蘭盆会施食会 (本堂)

八月十六日 午前九時～午後二時 受付は十二時半まで
各家のご先祖様のご供養のため、法要をとりおこなう、ご回向させていただきます。

○ 彼岸会写経会

九月二十三日・二十五日 午前十時～午後四時
墓苑事務所にて受け付けております。お気軽にお申し付けください。費用千円

○ 秋季彼岸会施食会 (本堂)

九月二十六日 午後二時～三時 受付は二時半まで
お彼岸は、ご先祖様に感謝し、わが身を省みる大事な期間。仏壇に花やおはぎを供え、家族そろってお墓参りして、ご先祖様に供養をささげましょう。

墓檀家様

○ 墓前回向

八月十日 午前十時～十二時 受付は午前十一時半まで
八月十二日 午後六時～九時 受付は午後八時半まで
*どちらかご都合のよい日にお越しください。臨南寺に墓地をお持ちの方に限ります。

9月1日より

開門・午前五時
閉門・午後九時



面目を一新して、「臨南寺」の名前が際立つようになった寺の入口。入ってすぐのところに地藏堂も見えます。

当山ではこのほど、入口に鉄製のトビラを設け、夜間は締め切ることになりました。お通夜や行事など特別の場合を除いて、午後九時から午前五時までは出入りすることができません。
ご時世のせいも、最近、お墓にいたずらする不心得者もおり、また夜間に不審者を見かけることも増えました。ご不便をおかけいたしますが、安全を確保するための措置であり、ご理解いただきたいと思っております。
お参りやお勤めは、午前五時から午後九時までに済ませていただきますようお願いいたします。

マトリ合同法要

法話と祈りの一日

五月九日(日)午後二時から、がっしょう園マトリの合同法要が営まれました。今回の法話は、山形県の楊柳庵住職の木村尚徳老師です。少年野球のコーチをしている木村老師。ピンチになると声が出なくなる子どもたち。呼吸をコントロールすると精神状態もコントロールできるといってお話から始められました。
「いいこと半分、悪いこと半分、それが人生」「過去は妄想、未来も妄想、確実なのは今しかない。今を生き切ることに大切」「供養は先祖のため。と同時に自分を確かめるため」メモを取る人も多く、静かな口調が心に染み渡っていました。



墓苑をご利用の皆様へお願い



- 手桶を花立て代わりに使わないでください。ご使用後は必ず元の場所へお戻しください。
- お墓参り以外での駐車はご遠慮ください。境内では最徐行をお願いいたします。駐車中の事故等は一切責任を負いかねます。
- ペットを墓苑内に連れて行かないでください。
- トイレにオムツを流さないでください。
- お供物は、カラスなどに荒らされる原因となりますので、各自お持ち帰りください。

お気軽にご参加ください

早朝坐禅会

毎月第一土曜日
午前六時半〜 本堂にて
*二月・七月・八月は、お休みさせていただきます。

写経会

毎月二十日 午前十時〜午後四時
写経料・千円

『正法眼蔵随聞記』読書会

毎月第二土曜日 午後三時〜
*二月・八月は、お休みさせていただきます。
*いずれも事前のお申し込みが必要です。

編集後記

小惑星探査機はやぶさの7年ぶりの帰還には、驚かされました。それも、故障を抱えながら必死で大気圏に突入し、カプセルを吐き出したあと燃え尽きてしまった。何やら我が身に重なって胸が痛みました。それにしても時のたつのが早い。前住職の七回忌なのですから。ご感想をお寄せください。(M)

「ほ〜っと」30号
平成22年7月

編集・発行： 菱伽林「ほ〜っと」
編集室

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-32

☎ 0120-711-493

TEL 06-6698-1001

FAX 06-6697-3330

Eメール： rinnanji@abeam.ocn.ne.jp

ホームページ： http://www.rinnanji.com